

はりきって参加した日本

日本政府はホワイトシティの一角に、宇治の平等院のような日本館を建築。参加費用もずいぶんかかったけれど、日本を知ってもらうチャンスとばかりにはりきった。



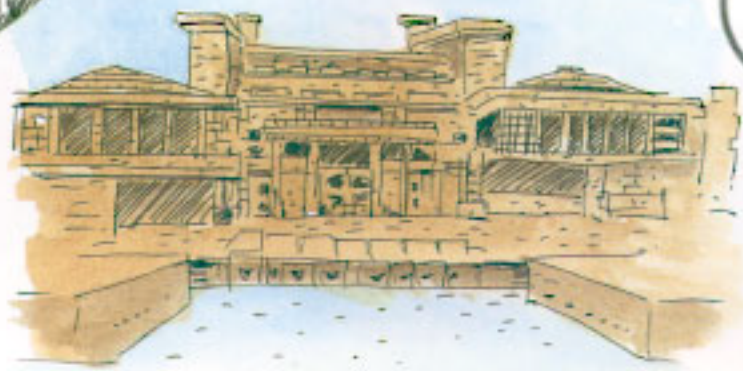
日本館

日本建築の特徴をよく表しているため、世界的な建築家・フランク・ロイド・ライトも注目していた。アメリカ人は建築中から興味しんしんだったそうだよ。右の写真の百年後の日本館（ハノーバー万博）を見たら、もっとおどろいただろうね。



フランク・ロイド・ライト

のちに帝国ホテルの建築を担当する事になる日本にゆかりの深い建築家。大山市の明治村博物館に、東京・千代田区にあった帝国ホテル玄関ロビーが残されている。



明治村の帝国ホテル

自分の国や国民について、知ってもらうには万博は最高の舞台なんだ



明治時代の日本女性

日本の女性の暮らしぶりや考えを紹介する展示にも力をいれた。いまは日本もアメリカも同じような生活のスタイルだけれど、当時はまったく違っていたから、おどろいただろうね。



伝統的な日本女性の姿

ほとんどの女性が着物姿で、日本髪がふうだった。勉強風景、洗濯と子守り、炊事風景。炊飯器なんてなかったからごはんはかまどで炊いた。むかしはかまどの火を起こすのに、「火ふき竹」という道具を使った。

洋服姿の日本女性もいた

当時の最先端モードの女性たち。日本にもヨーロッパやアメリカの社交場をまねた鹿鳴館という社交クラブがあった。上流階級と外国大使館の人々しか入れなかったが、ここで外国のエチケットなどを学んだ。



あいち万博もいろんな国に喜んで参加してもらえそうな万博にしたいね

